

高校生と地元企業をつなぐ「フィールドスタディ」

地元を知り、未来を拓く機会を提供

浜松商工会議所では、マイナビが立ち上げた高校生向けオンライン学習サイト「locus（ローカス）」を活用し、地域企業を舞台とした探究学習「フィールドスタディ」の機会を高校生に提供している。

産業用加熱設備の設計・製造・保守を手掛けるエコム代表取締役の高梨智志氏と、同社に生徒を訪問させた浜松西高校校長の持山育央氏が、フィールドスタディの意義や成果について話した。

最近の高校生はクレバーでスマートですね。
理解度も高いし、
的確な反応が返ってきます。

——高梨代表取締役

——まず、浜松西高がフィールドスタディを実施した目的や経緯について教えてください。

持山校長 本校は令和3年度に県教育委員会から「イノベーション・ハイスクール」の指定を受け、「総合的な探究の時間」のカリキュラムを作り上げてきました。その一環としてフィールドスタディを取り入れた企業探究学習を行っています。

以前の学校教育は、教員が教えたことをどれくらい再現できるかということに焦点が置かれていましたが、近年の教育は大きく様変わりしています。予測困難な将来を生き抜く力をつけるために、生徒が自ら課題を発見し、他者と協力しながら解決策を考え、実践するという教育をどんどん取り入れていて、フィールドスタディもその手段の一つです。

**高校生たちの多くは
地域の企業のことを知らない**

——エコムでのフィールドスタディにおける浜松西高生たちの反応はいかがでしたか。

高梨代表 当社がカーボンニュートラルという課題に取り組むために、事業活動と社会活動を両立していることを主に説

明しました。そこに一体どのような意味があるのかを読み取ることは少し難しいと思うんですよ。でも、西高生たちはそれに対する回答をしっかりと導き出している様子でした。

西高生に限らず、最近の高校生たちはクレバーでスマートですね。与えられた情報量が多くても理解度が高く、的確な反応が返ってきます。フィールドスタディの他校の生徒の感想文に、「自分は将来の夢がはっきりしていなかったけれど、エコムさんの説明を聞いて、少しでも夢に近づくことができました」と書かれていたのですが、当社がそんなふうに関心を持ってもらえるだけでもうれしいですね。

持山 生徒たちは地域の企業のことを意外と知らないんですよ。親が働いている姿を見たことのある子すら少ないと思います。そんな生徒たちにとって、地元の



フィールドスタディでは3時間程度のプログラムが組まれ、工場やオフィスの見学も行われる



フィールドスタディは1年次、その成果を発表する「浜西総探DAY」は2年次に行われる

代表取締役
高梨智志

1985年の創業以来、熟技術に特化した事業を展開。加熱設備開発・設計・製造・メンテナンスを行う熱総合エンジニアリング企業。2023年3月末には名古屋証券取引所メイン市場に新規上場を果たした。
●浜松市浜名区平口

企業を訪問し、実際にオフィスや工場で働いている人たちの姿を見たり、取締役から話を聞いたりすることは、新鮮な驚きに違いありません。

それを学校に持ち帰ってグループ間で共有し、最終的には企業への逆提案という形で発表の場を持つことで学習が深まります。この経験が将来の夢を見出すきっかけになると、なお良いと思いますね。

**企業も高校生も
それぞれの成長を目指そう**

高梨 就職活動が始まってから「自分の可能性について考えろ」といきなり言われても難しいですよね。フィールドスタディを通じて、「この仕事に興味があるから、この学部に進学しよう」という選択ができれば、その生徒の将来は大きく変わってくると思います。

校長
持山育央

県立の併設型中高一貫校。生徒数は中等部が約460人、高校が約720人の計1180人。来年度に創立100周年を迎え、記念事業として、ASEAN地域に進出している地元企業の拠点を生徒たちが訪問する「海外フィールドスタディ」を実施予定。
●浜松市中央区西伊場町

当社でのフィールドスタディにおいても、「ものづくり企業って楽しそうだな」と思ってもらえれば、有意義な時間を提供できたことになると思います。そして最終的に、「製造業に就くなら浜松でいいじゃん」という結果につながるとしたら、すごく意味のあることですね。

——将来に向けた高校生の視野を広げることのほかに、地元就職や大学卒業後のUターン就職につなげることもフィールドスタディの狙いの一つです。それに対する期待感がありますか。

高梨 実は、私個人としては学生たちにUターン就職を勧めるつもりはなくて、むしろ東京・大阪どころか、世界の果てまで行ってしまえ！という考えなんですよ（笑）。外でいろんな経験をした後に「やっぱり浜松がいいや」と帰ってくるなら、それでもいい。

学生たちにUターン就職を望むよりも、地元企業がそう思ってもらえるようになるべきでしょう。そのためには、企業自身が成長して事業性や社会性を高め、自社の魅力を発信していかなければなりません。それをフィールドスタディで生徒たちに還元していきたいと思っています。

地元企業で人々が働く姿を見ることは、
生徒にとって新鮮な驚き。
学びも深まります。

——持山校長